

## ひょうごボランティアプラザ

### 1. 17から3. 11へ ～希望の灯りを東北へつなぐ～

県社協ひょうごボランティアプラザは、3月9日～12日、東日本大震災から2年となる被災地へ17回目のボランティアバスを運行し、総勢47人のボランティアが名取市<sup>ひりあげ</sup>関上地区および仙台市で開催された追悼イベントの運営支援を行った。

今回のボランティアバスは、「神戸・市民交流会」及び「阪神・淡路大震災 1.17のつどい実行委員会」と協働して実施。バス運行に先立つ3月7日、神戸・東遊園地に灯される「1.17希望の灯り」を分灯し、この「希望の灯り」を東北へつなぐこととなった。

10日に名取市関上地区で開催された「3.11 関上追悼イベント2013」では、神戸より運んだ竹灯笼で描いた「絆」に地

元の方々と一緒に火を灯すとともに、震災当日に関上中学校を目指し避難する途中で亡くなられた方々への鎮魂のため、多く



名取市関上で描かれた「絆」

のボランティアや現地の方々と一緒に、全国より集められた絵灯笼で「光の道」を作った。

翌11日には、「キャンドルナイト2013」が仙台市勾当台公園で開催された。ここでは市民の思いが書かれた「ゆめコップ」で描いた「かがやけ仙台」と、竹灯笼による「1.17 3.11」の文字を地元ボランティアと作成。

## 兵庫県からつなぐ 被災地支援

兵庫県内の社協、社会福祉施設、NPO、職能団体等の救援活動を紹介し



震災から2年が経ち支援のかたちが変わりつつある今、揺れる炎をじっと見つめる大勢の市民の姿に、阪神・淡路大震災を経験した私たち兵庫県だからこそできる支援や思いを届けることができたのではないかと改めて感じた。

仙台市で描かれた「1.17 3.11」

ひょうごボランティアプラザでは、今年度も「被災地交流励ましボランティア活動助成」を行います。県内のボランティアグループ等による、被災地の仮設住宅等におけるボランティア活動に要する経費の一部として、バス等の借上料を助成します。詳細は本紙12ページをご覧ください。

## 被災地での要援護者支援活動を報告

3月20日、仙台市内で「震災被災地における要援護者への個別・地域支援の実践的研究報告会」が開催され、宮城県の仮設住宅支援員(サポーター)への研修から見える今後の支援について、兵庫県社協より報告を行った。サポーターの研修は、兵庫県内の社協や在介職員、研究者らが協力して宮城県で実施している。

現在、仮設住宅支援員は、アルコール依存や近隣トラブルなどの支援困難ケースを含めた支援を日々重ねる中で、個別・地域支援のスキルを確実に蓄積している。サポーターの実践や仕組みは、社会福祉の先駆的な実践であり、私たちが学ぶべきことは数多い。今後もお互いの取り組みを交流しながら、それらの発信に努めていく。



個別支援と地域支援を統合した  
社会福祉援助の方法を  
やさしく解説



各テキスト(2冊セット4,500円)の注文は、  
NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター  
☎022(727)8730 FAX022(727)8737まで。